
**2022 年度日本リハビリテーション医学会
東北地方会
専門医・臨床認定医生涯教育研修会**

抄録集

大会長 西嶋 一智

宮城県リハビリテーション支援センター

オンライン開催

2022 年 11 月 27 日(日)

交通外傷による重症頭部外傷後遷延性意識障害維持期の 治療の現状

関 慎太郎

広南病院・リハビリテーション科長

東北療護センター・副センター長

当センターは独立行政法人自動車事故対策機構より運営委託を受け、自動車事故に起因する重症頭部外傷に伴う遷延性意識障害維持期の患者を約 3 年を目処に入院にて意識状態改善を目指す介入を行ってきました。頭部外傷は脳損傷部位と程度などが症例毎に様々であり、標準治療の設定は非常に困難であり、リハビリテーションを含む治療は症例ごとに試行錯誤を繰り返す究極オーダーメイド状態となります。当院で行われている治療の現状について解説します。

略歴

- ▶ 平成 10 年
東北大学医学部 卒業
東北大学脳神経外科学教室に入局
東北・関東地方の関連病院にて脳神経外科医の研鑽を積む
- ▶ 平成 14 年
東北大学大学院（神経外科学分野）に進む
- ▶ 平成 16 年
脳神経外科専門医に認定
- ▶ 平成 17 年
白河厚生総合病院脳神経外科 に勤務
- ▶ 平成 25 年
東北大学病院肢体不自由リハビリテーション科 に勤務
- ▶ 平成 28 年
リハビリテーション科専門医に認定
- ▶ 平成 29 年
広南病院リハビリテーション科科長
兼 東北療護センター副センター長

役職・資格

- 日本リハビリテーション医学会 専門医、指導責任者
 - 選挙管理委員会 委員長
- 日本脳神経外科学会 専門医
- 日本脳卒中学会 専門医
- 日本義肢装具学会 義肢装具専門医

講演 2

摂食嚥下リハビリテーション～原因疾患に応じたアプローチ～

金成 建太郎

長町病院・リハビリテーション科部長

近年、摂食嚥下障害のベッドサイド評価や嚥下内視鏡・嚥下造影の検査方法については普及してきたものと思われる。しかし、摂食嚥下障害は様々な原因によって生じるため、検査中に障害の原因を追究し、有効なアプローチを検討する必要があるが、これは実際に臨床経験を積まないと難しいところである。今回、自身の経験の中から嚥下障害の病態に応じたアプローチにより改善が得られた症例を御紹介する。

略歴

- ▶ 平成 8 年 秋田大学医学部 卒業
坂総合病院にて初期研修
- ▶ 平成 12 年 坂総合病院 リハビリテーション科 に勤務
- ▶ 平成 13・14 年 外部委託研修
横浜市大リハビリテーション科、東海大学リハビリテーション科、
聖隷三方原病院リハビリテーション科
東北大学病院肢体不自由リハビリテーション科 に勤務
- ▶ 平成 18 年 長町病院 リハビリテーション科 に勤務
- ▶ 平成 20 年 リハビリテーション科専門医に認定
- ▶ 平成 21 年 太田総合病院 リハビリテーション科 に勤務
- ▶ 平成 23 年 長町病院 リハビリテーション科 に勤務
- ▶ 平成 26 年 リハビリテーション科指導責任者に認定

役職・資格

- 日本リハビリテーション医学会 専門医、指導責任者
- 東北摂食嚥下リハビリテーション研究会 幹事

切断に対するリハビリテーション治療

西嶋 一智

宮城県リハビリテーション支援センター・技術副参事兼技術次長

近年、末梢循環障害を原因とした下肢切断者が増えている。また、平成 20 年の診療報酬改定により、回復期リハビリテーション病床の対象疾患に「義肢装着訓練を要する状態」が追加され、切断に対するリハビリテーション治療の提供が以前よりも求められている。療法士への訓練指示だけでなく、義肢の処方もあり、他疾患に比べてリハビリテーション科医師の積極的な関与が求められる。本講演は切断のリハビリテーション医療の基本を復習することを目的とする。

略歴

- ▶ 平成 10 年 東北大学医学部 卒業
東北大学脳神経外科学教室に入局
広南病院、東北大学医学部附属病院、古川市立病院、
帯広第一病院、仙台医療センターに勤務
- ▶ 平成 16 年 脳神経外科専門医に認定
東北大学肢体不自由学教室に移る
東北大学病院肢体不自由リハビリテーション科に勤務
- ▶ 平成 22 年 リハビリテーション科専門医に認定
- ▶ 平成 25 年 宮城県リハビリテーション支援センターに勤務

役職・資格

- 日本リハビリテーション医学会 代議員、専門医、指導責任者
 - 障がい者福祉委員会、専門医委員会、切断義肢 SIG コアメンバー
- 日本脳神経外科学会 専門医
- 日本義肢装具学会 義肢装具専門医
- 全国身体障害者更生相談所長協議会 補装具判定専門委員会 副委員長

講演 4

当院における回復期退院患者への就労支援、両立支援について

鈴木 文歌

仙台リハビリテーション病院・診療部長

近年の脳卒中急性期治療の進歩により脳卒中の死亡率は低下し、特に就労世代（20～64 歳）などの比較的若い患者においては約 7 割がほぼ介助を必要としない状態まで回復する。しかし脳卒中罹患労働者の復職率は 5～6 割と報告されており（厚生労働省 HP）、本来復職可能な患者が十分なサポートを得られないまま退職に至っているケースも多いと考えられる。今回、当院でのリハビリテーション患者に対する復職支援、両立支援の現状について報告する。

略歴

- ▶ 平成 19 年 福島県立医科大学医学部 卒業
福島赤十字病院、福島県立医科大学 で初期研修
- ▶ 平成 21 年 東北大学内部障害リハビリテーション科に入局
東北大学医学部附属病院 に勤務
- ▶ 平成 26 年 リハビリテーション科専門医 に認定
- ▶ 令和 2 年 仙台リハビリテーション病院 に勤務
- ▶ 令和 4 年 学位（医学博士）取得

役職・資格

- 日本リハビリテーション医学会 専門医
- 日本内科学会 内科認定医/総合内科専門医
- 日本抗加齢医学会 専門医
- 日本認知症学会 専門医
- 日本心臓リハビリテーション学会 心臓リハビリテーション指導士
- 日本腎臓リハビリテーション学会 腎臓リハビリテーション指導士